

## 「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロードバンドのエリアカバーは、光で9割に達しており、既に世界最高水準</li> <li>・ブロードバンドへのアクセスは、光に限らず、CATVや無線など多様な手段を総動員することが必要</li> <li>・新たに光を敷設するよりも、携帯電話等の無線の超高速ブロードバンド化を図る方がより現実的</li> <li>・事業者・自治体のブロードバンド基盤整備を促進するためには、ICTの積極的な利活用が必要</li> <li>・無線の超高速ブロードバンド化を促進するために、周波数の更なる有効活用が必要</li> </ul>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>ブロードバンドの利用率は、固定で6割強、携帯で9割強と世界最高水準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸外国と比べ進んでいない行政・教育・医療の分野におけるICTの利活用に向けた政策的な取組みが必要</li> <li>・エンドユーザの超高速インターネット利用に対し、インセンティブを与えて利用を加速させる仕組みが必要</li> <li>・電話を前提とした規制から、ブロードバンド・IPを前提とした政策への転換が必要</li> <li>・インフラ整備は設備競争を基本とし、不採算エリアは国・自治体の整備により補完することが最も経済的</li> <li>・設備は既に世界で最も開放されており、これ以上の開放はイノベーションや投資インセンティブを損なう</li> <li>・ユーザ利便やイノベーション、投資インセンティブ、経営の効率性、企業価値といった様々な観点からの課題も多く、取るべき選択肢ではない</li> <li>・アクセス分離は、これまでNTTと設備競争をしてきた電力系・CATV事業者の事業に大きな影響を与えるリスクがある。</li> <li>・アクセス分離は、時間とコストがかかり、ブロードバンドの普及をかえって障害</li> </ul>